

栄光

説教

『神の御業』

ヨハネによる福音書9章1節～12節

東洋英和女学院中学高等学校教諭 上野峻一

説教・「神の御業」 上野峻一教師…1
特集・心が「暖まる」 コンテンツ…2
説教・「先祖返り する信仰」 種房正勝教師…5
説教・ 「赦されて生きる」 岸俊彦牧師…6
成人祝式報告…7
長老のファイル…7
牧師の書齋から…8

ヨハネによる福音書の第9章

に出会ってくださったのです。

は、全体としてまとまりのある内容をもっています。ある一人の人が、主イエス・キリストと出会い、主を信じるといふ救いの出来事が記されています。この人は、イエスさまと出会い、奇跡を経験して、すぐに信じて変わるのではなく、少しずつキリストを信じる者になっていくのです。私たちの人生には、決定的な出会いというものがあります。しかし、そのような出会いは変化のはじまり、スタート地点に立つようなものかもしれません。また必ずしも、出会いは自分が求めたり、望んだりして与えられるものでもありません。この生まれつき目の見えない人もそうでした。主イエスの方から一方的

に出会ってくださったのです。主イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられます。聖書には「見かけられた」とあります。そのため一読すると、ちよつと目に入ったとか、チラッと見たという印象を受けます。けれども、原文では「見た」としか読めません。イエスさまは恐ろしくちゃんとその人を見たのだと思います。だから弟子たちは気になります。「ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか」。ラビとは、先生という意味です。弟子たちは、教師に尋ねるように、イエスさまに教えを乞うように聞きます。「見る」という行為は、

関心を示すことです。主イエスが、その人を見て何を考えておられるのか、弟子たちが知りたい、教えるて欲しいことがありました。

弟子たちは、「生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも両親ですか」と問います。当時、病氣や障がいというのは、罪の結果だと考えられていました。因果応報の思想です。つまり、この人自身が神さまに背くことをしたから生まれつき目が見えない。あるいは両親が神に背いたから病氣になったと考えます。しかし主イエスは、そのどちらでもないと言います。キリストは言われます。第9章3節「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである」。主イエスは、当たり前のように社会で考えられてきた因果応報の考え方、何よりも罪との関係を切り離します。

主イエスは、「神の業がこの人に現れるためである」と言われます。「神の業」という言葉は、原文では複数形です。神の業は「目が見えるようになる」という奇跡

だけではありません。奇跡によって起こること、この人が変わっていくこと、何よりも主イエス・キリストを信じるものとされることを含んでいます。つまり、イエスさまとの出会いによって、神の出来事によって、新しいスタートが始まっていくのです。過去に留まるのではなく、今この時点から将来へと向かっていく神の御業の数々の始まりと言えます。

主イエスは言われます。「わたしたちは、わたしをお遣わしになった方の業を、まだ日のあるうちに行わねばならない。だれも働くことのできない夜が来る。わたしは、世にいる間、世の光である」。主が言われる「わたしたち」は、洗礼を授けられた者、キリストの弟子である「私たち」です。私たちはキリストをお遣わしになった父なる神の業を、だれも働くことのできない夜が来る前に行います。主イエスは世にいる間、世の光でした。そして今、キリストの光を光とする者たちこそ、主の教会です。私たちは、2023年もまた、キリストの光で世を照らし続ける歩みをしていくのです。

心が「暖まる」コンテンツ

日本列島に寒波が到来して、寒い日が続いています。

寒いときでも暖かい気持ちになれる本、映画、音楽など皆さんのお勧めのコンテンツを紹介してください。



電気ベストの凄さ

石室裕一

私は電気ベストを愛用しています。USBで充電ができ、スイッチを押すと発熱します。スイッチを押しなくて着ているだけでも、かなり暖かいです。極寒の釣りがあまりにも寒いため、2年ほど前にこのベストにたどり着きましたが、意外なことに、見た目もなかなかシュッと都会的で（と自分では思っております）とても気に入っています。

これを着ていると、よく人に話しかけられるようになって、それも何だか嬉しいです。なぜ話しかけられるのかというと、ウルトラマンのような明らかな電源ボタンが胸に付いているので不思議に思われるのでしょう。

そして、電化製品やPCでお馴染みの電源マークがこのボタンには付いているのですが、これが逆さまに取り付けてあるのも、中国製ならではのなんとも大らかなと

ところで、皆様の笑いを誘ってしまっています。

「私も欲しいわ、どこで買ったの?」「充電方法は?」「裏も見せて」「ちよつと着させて」など、どんな話が膨らんで、話し下手な身としては、自分が会話のネタになるというだけで嬉しい瞬間なのです。

そんなわけで、このベストを着ていると、体だけでなく心まで暖かくなります。釣りでもなく、毎日電気を入れず何となくひよいと毎日羽織るようになり、それでも本当にあたたかく、無くてはならない冬の相棒となりました。

これを手に入れるまでは、冬場ずっと私の薄着に文句を言っていた（いや、心配してくれていた）妻も、今はご満悦で何も言いません。



思い出のドラマと飯

小田 麦

私の心が暖まるコンテンツはビデオ・オンデマンド・サービスです。寒い外には出ずに休日を充実して過ごすことができます。今回はその中でも最近観たドラマを紹介します。音楽配信サービスと連動して物語が進みます。周りで起きる人間関係等の問題に対し、主人公がラジオのように想いを配信しながら成長していく物語です。

この物語の主軸は主人公の思い出のチェーン店のご飯、略して「チェーンメシ」です。毎回違う「チェーンメシ」が紹介されます。失恋をした回では、恋人と行ったハンバーガー屋さん。ラジオ配信での誹謗中傷に傷ついた時はわざびの利いた回転寿司など様々です。観ていると食べたくなってしまうものばかりです。主人公の想いがこもった紹介に心が暖まります。

「チェーンメシ」ではありませんが、私にも思い出の食事があります。

今の家を作る際に間借りした家で妻と暮らしていた時のことです。間借りのため、暖房設備を整えずに冬を迎えました。室内の温度は外気と変わらないため、部屋でも息が白くなります。夢のマイホームとは遠く離れた過酷な生活でした。あまりに寒く、礼拝をオンラインで聴くために行った義理の大叔母の家に泊めてもらうこともありました。当時、妻と一緒に食べた料理は思い出すだけで暖かい気持ちになります。今も食べる料理ですが、ふと妻と凍えながら食べたことを思い出して笑えてきます。よくこの話をするので、妻は私が当時の過酷な生活を気に入っていたと思っているようです。妻と一緒になので楽しかったですが、今の方が当然幸せだということをここで述べておきます。

そのドラマは今もビデオ・オンデマンド・サービスで見ることができます。また連動していた音楽配信サービスでも、物語で主人公が配信していたラジオが視聴可能です。是非興味のある方は探してみてください。思い出のご飯と一緒に。『お耳に合いましたら。』

読書の時間

門田浩一郎

12月に母がホームに入居しました。昨年夏に自宅で夜中に転倒し、救急車で運ばれ、骨折のため入院その間にコロナにも感染してしまいました。体の不自由に加え、体力も落ちてしまったため、退院後は老健（介護老人保健施設）に入所することになりました。

しばらくリハビリを続けていましたが、要介護度が進み介護認定を見直したところ、「要介護4」となりました。5年前に心臓の手術を受け、その後、脊柱管狭窄症を患うなど要介護の生活の中で、4年半ほど一緒にサポートしていただきお世話になってきたケアマネさんとも相談し、このまま自宅に戻つての生活は本人の不安も大きく難いため、自宅から車で15分ほどのホームに入居となりました。

老健の頃は、オンライン面会のみでしたが、今のホームでは、オンラインに加え、対面での面会も

でき、母の様子もわかります。元来、人と話すことの好きな母は、入居者の方とコミュニケーションを取り、またレクリエーション等にも参加し、穏やかに過ごしておられます。

そんなことで、母の部屋を整理していたら、昔読んでいたアンデルセン童話が出てきて、懐かしく手に取りました。子どもの頃は物語が好きで、よく本を読んでいたものです。

幼少の頃に読んだ本の中では、『ちいさいおうち』が心に残っています。だんだんとみずほらしくなり、しょんぼりしていくおうちが、最後は幸せになるところと、やさしく温かみのある色彩の絵が好きだったように思います。あらためて読み返してみると、時の流れを通して現代社会への警鐘を鳴らすメッセージ性もあり、とても奥の深い話だったことに気づかされました。

私も来年は還暦を迎えます。いままでも仕事関係の本が主でしたが、これからは少しずつ時間を見つけて、また読書の時間を楽しみたいと思つているところです。

心が温まるコンテンツ

小嶋幸子

絵本が好き。子どもたちに読む。膝の上に子どもたちの重さを感じながら、自分も共に楽しんで読めるとき、子どもたちからの「もう一回」の声はなんとも温かい満ち足りた気持ちになる。

一人でも絵本を読みたくなる時がある。スーザン・バーレイの『わすれられないおくりもの』。初めて息子たちに読み聞かせた時、亡くなった祖父母のことが思い出され、涙があふれて止まらなかつた。大切な人の死、それまでのかわわりと思いの豊かさが胸に迫り温かい感謝の気持ちでいっぱいになる。同時に彼らに見守られて前を向いて歩いていこうと思える。そんな気持ちになる大切な一冊だ。

安野光雅の『野の花と小人たち』も大好きな一冊。レンゲ、すみれ、いぬふぐり、露草など、身近な小さな花々と小人たちが描かれている。それぞれの絵に安野氏の思い

出コメント。絵本というより画集だ。横浜の日吉、家までの道は丘の斜面に畑や竹の混じった雑木林のある自然豊かな道で、花を摘んだり、虫を取ったり、少しドキドキしながらも雑木林の斜面に分け入って遊んでいた。ちよつと薄暗い木々の根元にホタルブクロを見つけた小さな喜びや、山の墓地の間に生えたつくしを夢中になって摘んだりした思い出がこの本に心惹かれる理由なのかもしれない。

ジブリの原画を手掛けた二木真希子の『小さなピスケのはじめの旅』。森の匂い、丘の上の風や光まで感じる美しい描画に引き込まれた。三部作のピスケシリーズは58歳で亡くなった彼女の遺作。魂のこもった作品だと思う。

ふと立ち寄った児童書店「緑のゆび」。棚の上のフェリクス・ホフマン『クリスマススのものがたり』。御子を抱くマリアの温かい佇まいに思わず手を伸ばした。数日後、書店も本も『こころの友』（12月号）で紹介されていた。良い出会いが嬉しかった。絵本紹介を担当されている斎藤惇夫先生のお陰で本箱の絵本が増えてしまいそうだ。

アート鑑賞でほっこり、リフレッシュ

酒井由紀子

私は美術や映画、舞台を見に行くことが好きで、特に気になる美術展があると、仕事や家事等で忙しい時でも足を運び、リフレッシュしています。寒い時期でも、気に入った美術を見ると心がぱっと暖かくなる気がします。なので緊急事態制限時は美術館に行けず辛かったです。作品の素材、大きさ、筆致など、生で見ないと得られない感動があるので。

昨心が暖まった美術展の一つは、世田谷美術館の「出版120周年 ピーターラビット展」です。ピーターラビットは、ビアトリクス・ポターが病床の元家庭教師の息子を励ますために書いた絵手紙が原点で、絵手紙や小さな挿絵原画、ぬいぐるみ等が展示されています。20世紀初頭に上流階級の女性であるポターが本を出版するまでの苦労や動物への深い愛情、湖水

地方の自然保護活動に注力したことなどを改めて知り、パワーを得ることができました。

正月には京セラ美術館で「アン・デイ・ウォーホル・キョウト展」を見ました。ウォーホルといえば、『キャンベルスープ』などポップな作品で有名な派手なセレブというイメージでしたが、実は熱心なカトリック信者で母親孝行な人だったそうです。若い頃の京都旅行での写真の彼は、素材で繊細そうでした。三十三間堂の千手観音像をみて、金箔の使用や一つの物を羅列する技法を思いつき有名になった彼は、自分を隠すように銀髪のかつらとポーカーフェイスでメディアに登場します。展示の見所である最晩年の作『最後の晩餐』は縦3m×横10mの巨大な絵で、ダビンチの壁画をポップにイラスト化しているようですが、「[THEY ARE]」と書いてイエスの名とガンII死への恐怖を盛り込んでおり、哀しい作品でした。

美術を見ることは心が潤います。予備知識がなくても大丈夫なので、ぜひ美術館に足を運んでみてください。

説 教

『先祖返りする信仰』

創世記4章1節〜26節

種房正勝

今朝の説教では、創世記4章全体が御言葉として示されました。

この4章は「アダムは妻エバを知った」という記述で始まり、長子カインと弟アベルを授かったことが記されています。そして終盤の25節で「再び、アダムは妻を知った」と記され、セトとその長子の誕生を告げ、セトが、続く5章のアダムの系図の正統な継承者とされます。4章末尾の26節は、「主の御名を呼び始めたのは、この時代のことである」と結びます。

この4章は、カインとアベルの人類史上最初の、しかも肉親による究極の殺人事件が記されているが故に、巷間、兄弟殺しの遠因を、あたかも神の献げ物に対する選好性に求めるかのごとき議論がなされるおそれがあります。そのような議論は、4章の本旨とは全く接点のないものです。主なる神が東の方のエデンに園を設け、自らの

似姿に形づくられた人間をそこに住まわせ、神が最初に人間に備えられた仕事は「そこを耕し、守るように」（創2・15）という農耕であります。

兄弟殺しは、被造物人間自身が、狡猾な蛇に乗せられて知恵を持つことにより、被造物でありながら造物主であられる神の意志に背く人間の傲慢さという原罪が引き起こしたことであります。

主が未だかつて、野の草花一つだに「選り好み」されたことはありません。何故なら、神は万物を創造されたとき、創造の結果を御覧になって「見よ、それは極めて良かった」（創1・31）とされました。被造物人間もまた然りであります。すなわち、人間の本性も「良かった」のであります。人間は必ず「善きもの」、「正しいもの」として、神の創造の本源に立ち戻るようにと遺伝子に組み込まれ、

創造されているのであります。

わたくし事で恐縮ですが、この僕は、過去4年間、三重県伊賀市上野の上野教会で、牧会奉仕に召される恵みに与りました。その折、上野教会のカイツカイブキの垣根を手入れして下さっている植木職人の方から、カイツカイブキの枝からスギ科の針のような葉が伸び出す「先祖返り」をしていることを教えてもらいました。広辞苑を見ますと、「先祖返り」とは、「ある個体に、親は持っていないがそれ以前の祖先が持っていた形質が現われること」とあります。ある育種家は、野生の祖先種のみが持っている形質が、系統間の交雑の結果、すなわち世代交代により、突然現れ、新しい芽が噴き出ると、と説明しています。

わたしたちの信仰もまた、常に、神による天地創造以来備えられている本源の恵み、すなわち「良きもの」として創造された原点に向かって、先祖返りをするのであります。これこそが、神がお造りになられた被造物人間の本性であります。

この地上で、初めて生を受けた

アダムとエバ以来、知識の木から実をとって食べてはいけないというたった一つの禁止命令さえにも、神に背を向けてしまいう人間です。神の恵みに感謝しないで身勝手な個人的怨嗟から弟アベルを殺害してしまうカインがいます。そのような人間であつてさえも、幾世代にもわたつて世代交代をしていく過程で「主の御名を呼び始め」、わたしたちの信仰が「見よ、それは極めて良かった」という一点に収斂していくのです。

長い人生を生きていく過程で、時には神の恵みを見失つてしまうような困難な時に出合うことが在るのも事実でしょう。しかし、そのような状況にある時にこそ、へりくだつて、すなわち心を貧しくして、神に感謝して祈り続ける信仰が備えられていることを片時も見失つてはいけません。固く、固く、一顧だにぶれずに主への信仰に恵まれて、「良き者」として生き続けよ、とこの創世記第4章はわたしたちに告げています。

説 教

『赦されて生きる』

ヨハネによる福音書8章1節～11節

岸 俊彦

朝日新聞の『語る 人生の贈りもの』というインタビュー記事に指揮者の井上道義氏が取り上げられていました。現在75歳で、来年引退するそうです。

「僕が父親だと思っていた人は本当の父親じゃなかった。本当の父親は、日本の基地に駐留していた米兵だった。そのことを僕は40歳になるまで知らされなかった。母から聞いた時、足元がぐらりと揺らぎました。2人に裏切られたような気がして、それからずっと苦しみ続けてきた。けど、今思うと彼らだって、とっても可哀想だったんだ。引退の前に、音楽の力を最後に借りて、もうこの世にいない彼らと、本当の『和解』を果たしたい。両親と僕のことをオペラにしよう」。

1月21日に初演されるオペラ『降福からの道』の由来です。「父は戦後、埼玉の基地で働い

ていたんだけど、そこに駐留していた年下の米兵のことが、母は好きになったんです。そして、僕が生まれた。それを赦すことのできた父が、僕は素晴らしいと思うんだ。普通は嫉妬などの感情で押しつぶされてしまうものでしょう。『赦す』っていうことの尊さを、ひよっとしたら僕は、父に教えられていたのかもしれない。異なる文化や考え方を理解しようとするのは大切だけど、やっぱり限界があるよね。国同士のことだって、宗教のことだって。そういう全てのことを解決できる可能性のある最良の心の作用が、僕は『赦し』だと思うんだ。その『赦し』の本質を最も高い次元で示してくれるのが、僕は音楽なんだと信じてる」。

この記事を読んで、指揮者の井上道義氏にとって自分の人生を肯定する、また他者の人生を肯定す

る『赦し』を日常の中で示してくれるのが音楽なのだと思います。翻って自分にとって『赦し』とは何なのでしょう。

姦淫の女の記事です。聖書の掟によれば姦淫は大罪です。男も女も石打で処刑されなければなりません。『赦し』を説くキリストならどうするのでしょうか。

キリストは、身を起こして言われました。「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい」。

この言葉を聞いた者は、年長者から始まって一人また一人その場を立ち去りました。自らを振り返れば思い当たることがあるので、長生きすればするほど罪を積み重ねるのでしょうか。正義を振りかざして、人を責める前に、自らの罪を問うたらどうなるのでしょうか。「あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか」(マタイ7・3)とキリストは教えてくださいました。「自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量る秤で量り与えられる」(同2節)のです。罪とは人間の根本問題です。人

には決して言うことのできない、内面の後ろめたさ、暗さと関わるのが罪です。「人の心は何にもまして、とらえ難く病んでいる。誰がそれを知りえようか」(エレミヤ17・9)との言葉もあります。「心を探り、そのはらわたを究めるのは、主」だけです(同10節)。その場に最後まで残ったのはキリストと女でした。キリストは「私もあなたを罪に定めない。行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない」と語ってくださいました。

この女のそれからについて、聖書は何も語っていません。私たちがならどうするでしょう。私たちのとらえ難く病む心を捉え、赦してくださいさるキリストの言葉を聞いて、赦されて、キリストが共にいてくださることを信じて、私たちに、新しい一歩を踏み出すことができないではないでしょうか。重荷を負ってくださいさる方がいてくださいます。私たちの罪を担い、赦してくださいさる主が共にいてくださいます。主と共に歩む人生の始まりです。(青山学院大学相模原キャンパス礼拝)

成人祝福式報告

愛を理解する

酒井愛理

20歳を目前にしたとき、大人になる覚悟や抱負などを考えるよりも、まず自分の名前の意味について考えようと思いついた。名前は人生で一番最初にもらった贈り物であり、これから先もずっと付き合っていくものだからだ。あまり公言したことはないが、私は自分の名前が気に入っている。名前の響きが好きなのと、愛理（えり）という珍しい読み方で、初対面の人にも覚えてもらいやすいからだ。だが、その由来についてしっかり考えたことはなかった。

私の名前はエフエソの信徒への手紙3章18〜19節に由来するらしい。「あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように」。以上がその箇所だ。

正直、まだ愛についてもよくわかっていないのに、その広さ、長さ、深さ、高さについて理解するなんてかなりの難題だと思った。しかし、愛をよくわかっていない私でも、自分がたくさん愛されてきたことは理解している。小学生の時に病気をして以来、人生の半分をその病気と共に歩んでいるので、普通に生きられることのありがたみや幸福を感じることがたまにあるのだが、その度に周りの人たちの愛によって救われてきた生なのだ実感する。それと同時に、私は愛を返せているのか疑問に思った。

20歳になった今、今度は私が愛を返す番だ。まずは人に愛を与えられる人間になって、愛を理解していきたいと思う。

長老のファイル

昨年の子ブ礼拝は土曜17時から行ったことや、コロナ慣れのためか、一昨年の80人から92人へ礼拝出席が増えました。一方、翌日のクリスマス礼拝は4名減でしたが。どちらにしても無事に行うことが出来、感謝でした。

1月8日の成人祝福式には、酒井長老のお嬢さんが出席してくださいました。祝福式後の挨拶ではお名前の由来を（考えながら話しますと言っていました）でも立派に、エフエソ3・18を引用しながら話してください、ここまで育てられたご両親の想いを知ることができ、大勢のおじさまおばさまの感動の涙を誘ったのでした。成人年齢が18歳に引き下げられたことから、経堂北教会でも祝福式の名称変更を行うかもしれません。何か良い名称があればお知らせください。嬉しい報告が続きました。こうして一歩ずつ日常を取り戻して行くことが出来たら、と願ってやみません。

現在長老会では『新共同訳聖書』

から『聖書協会共同訳聖書』への差替えを検討しています。この聖書は「教会一致運動」の結実だそうですね。「礼拝にふさわしい聖書」を目指されたとも。時代を反映させている部分もあるでしょう。翻訳作業に関わった方々のご苦労はいかほどであったかと思えます。8年もこの困難な案件に関わられた方々が、その都度祈り進められたことは確かです。今後も長老会で丁寧な検討していきます。『讚美歌21』を導入した時もそうですが、新しい一歩には少し勇気がいります。でもそこには常に神様が共にいてくださいます。私たちがそれを知っています。最善の道が与えられるように祈りを合わせ、想いを一つにして、一歩ずつ、でも確実に進んで参ります。

『栄光』の合本4冊が素晴らしい装丁で出来上がっています。03年から22年までの20年分です。これも一歩ずつ進んでこられたみなさんの20年でもあります。経堂北教会の財産です。どうぞ手にとつてご覧ください。ご尽力くださった沢田長老に感謝いたします。

(牧内美和)

牧師の書齋から

12月、1月の長老会では対外援助について協議しました。教会、社会福祉団体などに、合わせて32件48万円を献金することになりました。この他に『こころの友』応援伝道、西南支区クリスマス献金、日本基督教団伝道推進献金等を行っています。教団年金局謝恩日献金、東京神学大学などの神学校献金もあります。しかし、それよりもはるかに多い募金依頼が届きま

す。その一部に献金しているのが実情です。

年明けから領収書が届きます。感謝の言葉が添えられた領収書を階段の掲示板に貼り出しています。「右の手のすることを左の手に知らせてはならない」(マタイ6・3)と教えられています。掲示板一杯に張り出された領収書は主にあるネットワークを示しています。日本各地にある、また世界の片隅にある兄弟姉妹との繋がりの証です。

「教会の皆様への祈りに覚えられています。その一部に献金していることを感謝します」との言葉がありました。主にあって祈り合う兄弟姉妹であることを教えられました。対外献金とは祈り合い恵みを分かちあうためにあります。教会のホームページを見て、「カラフルですね」と一言添えられた領収書もあります。コロナで休会中のグループ活動を見て、「たくさん！ですね」とも。

毎週更新していますが、ホームページの全面リニューアルも考えなければなりません。祈り会では、祈りに覚える2教

会について、『信徒の友』に掲載された「日毎の糧」の記事を読み、地図上の位置と会堂・礼拝堂の画像をモニターで見ながら祈ります。用意した葉書に出席者が署名します。少しでも知ると祈りも具体的になります。

『信徒の友』4月号の「日毎の糧」欄に経堂北教会が掲載される予定です。60字で「祈りの課題」として何と書いたら良いのでしょうか。教団の1660の教会が祈りを合わせ、この困難な時代にこそ福音を伝えなければと思います。(岸)

個人消息



掲示板



- 降誕節第8主日礼拝
2月12日(日) 午前10:15
説教「神のみ業が現れるため」ヨハネ9:1-14
中村謙一教師
- レントに入る 2月22日(水)

編集後記



▽絵画、映画、ドラマ、本…、と好きなコンテンツは色々あれど、最近はEテレをよく見る。しゃべれもしない言語講座で勉強してみたり、子ども向け番組に感心してみたり。中でも「笑わない数学」はお気に入りである。(尾崎)

「栄 光」2023年2月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
牧師：岸 俊彦
編集：栄光編集委員会
Email：kyodon@nifty.com
HP：http://kyodokita.life.coocan.jp